

令和7年 業種別労働災害発生状況

令和8年1月末現在（未確定）

旭川労働基準監督署

区分 業種別		令和7年			前年同期			対 前 年		業種割合	令和6年(確定)		
		死亡	休業	合計	死亡	休業	合計	増 減 数	増 減 率	(%)	死亡	休業	合計
全 産 業 合 計		2	630	632	3	652	655	-23	-3.5	100.0	3	673	676
製 造 業			93	93	3	81	84	9	10.7	14.7	3	86	89
内 訳	食 料 品		44	44	1	22	23	21	91.3	7.0	1	23	24
	木材・家具装備品		12	12		21	21	-9	-42.9	1.9		22	22
	紙・パルプ		2	2				2		0.3			
	窯業・土石		3	3		4	4	-1	-25.0	0.5		4	4
	金属・機械		10	10	1	12	13	-3	-23.1	1.6	1	12	13
	そ の 他		22	22	1	22	23	-1	-4.3	3.5	1	25	26
土 石 採 取 業			3	3		4	4	-1	-25.0	0.5		4	4
建 設 業			76	76		57	57	19	33.3	12.0		58	58
内 訳	土 木 工 事 業		39	39		17	17	22	129.4	6.2		18	18
	建 築 工 事 業		28	28		32	32	-4	-12.5	4.4		32	32
	木 造 建 築 業		7	7		5	5	2	40.0	1.1		5	5
	そ の 他		2	2		3	3	-1	-33.3	0.3		3	3
道 路 貨 物 運 送 業			67	67		66	66	1	1.5	10.6		69	69
その他の運輸業			11	11		15	15	-4	-26.7	1.7		15	15
陸上貨物運送事業						1	1	-1	-100.0			1	1
林 業			5	5		9	9	-4	-44.4	0.8		9	9
卸 売 ・ 小 売 業		1	83	84		79	79	5	6.3	13.3		80	80
清 掃 業			39	39		40	40	-1	-2.5	6.2		41	41
そ の 他 の 事 業		1	253	254		300	300	-46	-15.3	40.2		310	310
内 訳	農業・畜産業		25	25		30	30	-5	-16.7	4.0		31	31
	社会福祉施設		83	83		87	87	-4	-4.6	13.1		92	92
	そ の 他	1	145	146		183	183	-37	-20.2	23.1		187	187

本統計は、労働者死傷病報告書（休業4日以上）により集計したもの。
管轄は旭川市、上川町、愛別町、比布町、当麻町、鷹栖町、東神楽町、東川町、美瑛町、幌加内町、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠町の2市、12町、1村です。

<p>今月のコメント</p> <p>・屋根や荷台、はしご等からの墜落災害が多発しております。高所作業を行うに当たっては、墜落制止用器具及び保護帽を必ず使用し、足場や高所作業車、手すり付き脚立や可搬式作業台を使用する等、目的に併せて安全な作業床を確保してください。</p> <p>・令和8年2月は第2回化学物質管理強調月間です。 SDS(安全データシート)に基づき、化学物質リスクアセスメントを実施し、ばく露防止措置を決定してください。</p> <p>・北海道冬季ゼロ災運動(12/1～3/31) 冬季の北海道では、路面凍結による転倒災害、自動車のスリップや吹雪等の視界不良による交通事故、屋根からの雪下ろし作業に伴う墜落災害、重機除雪作業時の接触災害、屋内での内燃式発電機等の使用による一酸化炭素中毒等の冬季特有の労働災害が多く発生しております。労使が協力して「北海道冬季ゼロ災運動」に取り組みましょう。</p> <p>令和7年業種別労働災害発生状況の確定値は、令和8年4月上旬を予定しております。</p>	<p>死亡災害ゼロ継続日数 (令和8年1月末現在)</p> <p>・製造業 1年1か月 ・建設業 4年3か月 ・運送業 4年6か月 ・林業 2年6か月 ・農業 3年8か月</p>
--	---

令和 7 年 死亡労働災害発生状況

令和 8 年 1 月末現在（未確定）

旭川労働基準監督署

	発 生 月	時 刻	業種	事故 の型	起因物	災 害 発 生 概 況
1	1	14	通信業	交通事故	整地・運搬・積込み用機械	被災者は、バイクにより郵便配達作業中、後退してきた除雪作業中のモーター・グレーダーに激突され、下敷きになったもの。
2	8	14	その他 卸売業	飛来、 落下	フォーク リフト	被災者は、フォークリフトでミニドラグ・ショベルを持ち上げ、ミニドラグ・ショベルの下に潜り込みドレン抜き作業を行っていたところ、ミニドラグ・ショベルがフォークリフトの爪から滑り落ち、被災者がミニドラグ・ショベルの本機と排土板との間に体を挟まれたもの。

本件事例には、脳・心臓疾患等によるものは、掲載していません。